

第49回上映会

東京ウィンド オーケストラ

坂下雄一郎監督作品

2016年／日本／カラー／75分／ブルーレイ上映



©松竹ブロードキャスティング

2018年3月3日(土)

[上映時間] ① 11:00
② 13:10
③ 14:50

[会場] 横浜市南公会堂

12:30~13:00

ロビー交流会

「東京ウィンドオーケストラ」

【ストーリー】

屋久島の町役場に勤める職員、樋口(中西美帆)は単調な日々の中でどこか投げやりだ。しかし今日は役場の雰囲気はいつもと違う。屋久島に日本を代表する有名オーケストラ「東京ウィンドオーケストラ」を呼びたいと、観光課の橋が長年温めてきた企画がようやく実現し、樋口が担当になっていた。

その頃、鹿児島港では東京からやって来た 10 人の楽団員たちが屋久島行き的高速船を待っていた。初めての屋久島ですっかり観光気分が浮かれつつも、なぜカルチャースクールのアマチュア楽団にすぎない自分たちが呼ばれたのか、不思議に思いながら…。

屋久島の宮之浦港に到着した一行を迎えに来た樋口は、オーケストラのわりにはどうも人数が少なく感じるものの、彼らを連れ、淡々とスケジュールをこなしていく。宿泊先は一流リゾートホテル。大ファンだという橋の異様なまでの盛り上がりよう——。のん気に過ごしていた一行も、島をあげての歓迎ぶりにさすがに不審がるが、樋口の上司・田辺に嫌味を言われると思わず「楽しみにしてください、感動させますから」と啖呵を切ってしまう。田辺とこっそり不倫をしている樋口は、そんな彼の態度に苛立ちを隠せない。

ふとコンサートのポスターに気づく一行。だが、何かがおかしい…。さらに彼らが案内されたのは、島一番の大ホール。20年来の夢が叶ったと感激する橋に、不審感は、いよいよ確信に変わる。

そう、樋口の手違いで、一文字違いでよく似た名前のアマチュア楽団「東京ウィンドオーケストラ」を呼んでしまったのだ。

真実を言い出せないまま一行が連れて行かれたのは、島の中学校。吹奏楽部の演奏で歓迎されるが、プロだと信じて疑わない島の人々に、今さら素人だと言い出せなくなってしまい、こっそり逃げ出そうと、大急ぎで荷物をまとめる。

同じ頃、楽団員のリーダー・杉崎の名刺を見て、樋口は何か違和感を覚える。恐る恐る検索してみると、出てきたのは無名のアマチュア楽団のホームページ。そこに映っていたのは、紛れもなく、いままさに島にいる楽団員たちだった…。

ようやく彼らが偽物だと気づいた樋口は慌てて控室にいくが、そこは既にもぬけの殻。自転車を飛ばし、間一髪、バス停で一行を捕まえる。事情を問いただすが、解決策が見つかるわけもない。追い打ちをかけるように、田辺に頼まれ、職員の前で演奏することになってしまう…。

“もうダメだ”と覚悟を決める樋口。しかし皆の予想に反して、田辺は「感動した」と興奮してしまう。樋口は真実を話そうと田辺を呼び出すが、勘違いされて取り合ってもらえない。

そこで樋口が下した決断は、「このまま本物ってことでいきましょう」というものだった！

【スタッフ】

監督・脚本・・・坂下雄一郎
プロデューサー
・・・松岡周作
撮影・・・・・・横田雅則
美術・・・・・・寺尾 淳
音楽・・・・・・小沼理裕

【キャスト】

樋口詩織・・・中西美帆
橋 和也・・・小市慢太郎
田辺昌平・・・松木大輔
杉崎耕史・・・星野恵亮
中田健吾・・・遠藤隆太
桜井京子・・・及川莉乃
矢口浩子・・・水野小論

【坂下雄一郎監督プロフィール】

1986年6月10日広島県生まれ。大阪芸術大学卒業後、東京藝術大学大学院映像研究科に入学。2011年に監督した『ビートルズ』でゆうぱり国際ファンタスティック映画祭 2012 北海道知事賞を受賞。2013年、オムニバス作品『らくごえいが』の中の一作『猿後家はつらいよ』で注目され、同年東京

藝術大学大学院映像研究科7期修了制作として監督した『神奈川芸術大学映像学科研究室』がSKIPシティ国際Dシネマ映画祭 2013 長編部門にノミネートされ、「審査員特別賞」を受賞。2015年夏に撮影した本作『東京ウィンドオーケストラ』(16)が初の商業映画となる。

【坂下監督インタビュー】

■ 『東京ウィンドオーケストラ』はどういった着想から生まれた作品ですか。

ワークショップ経由の映画ということもあり、ある程度登場人物を多くして欲しいというリクエストがあったので、それならキリのよい10人にしよう。その時参考に観ていた映画が群像劇が多かったのも、それはやめて、常に10人が一緒に行動する映画にしよう決めました。同時に、「登場人物が皆同じような衣装を着ている」というコンセプトの映画をやってみて良かったことを思い出して。連想した映画が『迷子の警察音楽隊』(07/エラン・コリリン監督)です。物語は、なるべくその時置かれている状況とリンクさせたほうが良いと思っています。そこでワークショップで選ばれた俳優が商業映画に出演するという状況から着想して、「素人がプロのふりをする」という話にしました。あと当時やっていた「ピクミン®」というゲームで、主人公のキャプテン・オリマーがピクミン®を引き連れるさまが微笑ましくて、それに影響されて、主人公の樋口が楽隊を引き連れていくイメージができています。樋口は、初めは朝ドラのヒロインみたいな元気ハツラツな設定で、最初の本読みでは中西さんにもそのイメージでやってもらっていたのですが、あまりピンとこず、試行錯誤を重ねて現在のキャラクターになりました。ワークショップは辛かったです(笑)。自分が人を選抜するような立場だとは思えません。ただあまり卑屈になってはいけなかったと思うので、誠実にワークショップに臨んだつもりです。

■ 坂下監督が本作でいちばん描きたかったことは？

映画である以上、物語の終わりまでに主人公は何かしらの変化をするものと思っています。ただあまりに劇的に変化するのもなんなので、あのようなラストにしました。なるべく王道の、ありふれていて見慣れている物語を、正面からちゃんと丁寧に作ろうと決めていました。なにしろ人から依頼されて映画を撮るのは初めてなので、色々勉強するつもりで取り組みましたね。老若男女関わらないような作品になっていると思いますので、広く色んな方に見ていただきたいです。

【中西美帆さんインタビュー】

■ 役作りや、現場での監督とのやり取りについてはどのように進めていったのでしょうか。

初めは、朝ドラヒロインのような天真爛漫なイメージもあったんです。けれど1回目の本読みの時に坂下監督から「中西さんがそれをやってもあまり面白くないし、どこにでもある作品になってしまう」と言われて。監督は初めから明確なビジョンがあるんですね。それこそ目線ひとつに至るまで指示があって。あととにかく笑わないでくださいと(笑)。ただ私も、主演というプレッシャーもあったし、こんなに感情を表に出さない人物で、ちゃんと愛されるヒロインになれるのかなって不安もあったんです。でもこれは他の役者さんに対してもそうだと思いますが、この人がこれをやったら面白そうとか、この人が生きるなっていうのを、監督は常に考えてくださったのかなと。例えばオーケストラの人たちが持つてる楽器のバランスが、体の小さい人が大きい楽器を持っていたり、その逆だったり。セリフの間をなるべく詰めて早めに言ってください、という指示もありました。間を詰めて話すことで、樋口のオーケストラに対しての面倒臭さや、受け入れてない感じが強く出たと思うのですが、後になって、監督は映画全体のリズムを想定されていたのかなと思いました。そうやって出来上がっていったので、本当に監督と一緒に作り上げていったなって感じがします。

■ 記念すべき初主演となる本作。どんな方にご覧いただきたいですか？

この作品を初号試写で見た時、涙が溢れてきたんです。私自身、悩んでいた時期に出会えた作品だったので、この作品に出会えたことも、素敵なキャストやスタッフの皆との出会いも、本当に愛おしくて、宝物です。だから本当に色んな方に観てもらいたいですね。長く愛される作品になればいいなと思いますし、きっと楽しんでもらえるんじゃないかな。観てくださった方にどう感じてもらえるのか、すごく楽しみです。

次回上映会のお知らせ

第49回上映会にご来場ありがとうございました

……次回、第50回上映会のご案内について……

上映作品、その他企画について、運営委員会で検討中です

(予定) 日時：2018年6月9日(土)

場所：横浜南公会堂

来場者の皆様には決まり次第、ハガキ、メール等で

お知らせいたします

しばらくお待ちください

<<<<< 横浜キネマ倶楽部のスタッフ募集 >>>>>

横浜市民とともに12年、映画好きが集まったグループです。

「自分が観たい」「他に人にもこんな良い作品をみてほしい」

とできたのが当倶楽部です。ぜひ仲間になってください。

ご関心のある方は下記までご連絡ください。

080-4022-1254

横浜キネマ倶楽部 事務局 神谷(かみや)

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう！

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一步でも近づきたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報

発行：横浜キネマ倶楽部



〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-56
横浜市市民活動支援センター No.85

横浜キネマ倶楽部

TEL: 080-8118-8502 (10時~18時)

Eメール: yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp

HPアドレス: <http://ykc.jimdo.com>